



アバン仙台 Jr. Youth News 2017年 8月号

第34回

大健闘！クラブユース東北大会



充実した大会とすることができました。

クラブユース 東北大会結果

- ★6月24日(土)
アバン 1 VS 3 モンテディオ山形村山
【得点者】 ① 佐藤里央
- ★6月25日(日)
アバン 2 VS 4 J-ヴェルツジ
【得点者】 ①白府大 ②佐藤輝 ③佐藤里央
- ★7月1日(土)
アバン 2 VS 2 ヴェルディ岩手
【得点者】 ①片岡丈 ②菊地楽

得点后、抱き合う楽くと陽太くん

得点后、たびたび見られるこの場面。今後のMJリーグでも見たいですね。



アバンが目指す「距離間」と「連動性」



今大会、3試合を通してアバンツァーレが目指してきた選手の「距離間」とプレーの「連動性」が成長しました。

そして、アバンのサッカーができれば、十分戦えると感じました。今後のMJリーグ後半戦、一部昇格に向けた重要なポイントとなります。

選手の「距離間」と「連動性」を感じる瞬間

「プレー意識」を求め続けるGKの活躍



今大会、GKの田宮光(たみやひかる)くんの活躍なしにチームの躍進は語れませんが、アバンの一員となってから1プレーへの「意識」と質を求め続けてくれる熱い選手です。今後も注目です。

危機を救った田宮くん

クラブユース東北大会から感じたこと

今回のクラブユース大会は、アバンツァーレのサッカーが「通用する」という今後に期待を持てる充実した大会となりました。

ジュニアユース創立以来、初となる東北大会出場。初出場となる私たちが、どんなサッカーをするのか、チャレンジャーとしての気持ちと準備してきたという自信から「やれる」という気持ちを胸に臨みました。

第1戦、モンテディオとはU13リーグでは10点は平均失点していたチームに最小失点。

第2戦、J-ヴェルツジは個人技と連携の強いチーム。勝負は得点の奪い合いとなりました。ここまでの2戦、メンタルの部分と技術的な精度の安定に一つ速い段階で修正し、自分たちのペースに持ち込めたらという惜しい結果でした。

各選手の成長を感じた中、自分たち目指すサッカーができたのは、写真の2選手、昌守(ちゃんす:左)くんと悠仁(ゆうと:右)くんの成長が大きいです。

狭い距離感と選手の連動性を保ちながら攻撃的なサッカーができたのは、昌守くんの力強いDFと悠仁くんの果敢なオーバーラップとボール奪取率。この2人が攻守に大きな存在となっています。

そして、ヴェルディ岩手戦。この強豪チームとの「引き分け」という結果を引き寄せたのは、甲田真大(こうだまひろ)くんが大会中のミーティングで皆に言ってくれたトレーニング意識・雰囲気よかった。

その様子を当日も感じ、「強豪」という存在を忘れ「自信」をもって全員で勝負することができました。

今回、自分たちの東北内でのレベルと技術的にも「やれる」と自信を深めた大会となりました。

選手みなさん。経験した結果・内容を1部昇格に向けて戦っていきましょう。



「2選手の成長」

キャプテンの気迫のプレー



キャプテン

7月1日、宮崎健登(みやざきけんとう)くんの気迫あるプレーを見せてくれました。

東北大会最終戦。強豪ヴェルディ岩手との勝負は同点のまま後半残り5分、健登くんの様子が気になり話しかけてみたところ、捻挫した。

「献身」宮崎健登くん

ただ、交代枠を使い切り勝負に出た直後だったので交代もできない。FWにポジションをあげて休ませ、大事な場面だけプレーに関わらせようと指示一言を出す時でした。

あれが「ゾーン」というべきか、正しい表現かはわかりませんが、とにかく健登くんの気迫が私の指示を止めました。

そこからの5分。そして、とうとうアディショナルタイム4分も彼は走り止めず、相手の決定打を打たせることなく、戦いぬきました。

彼は重度の捻挫でした。そんな中、思わずプレーに見入せるほどのことをやってのけた尊敬する選手です。

健登くんは、先の宮城県予選にてベストイレブンに選出されていました。評価されたのはプレーだけでなく、献身さでした。



テクニカル部分への取り組み

今回は、対人場面におけるボールコントロールに関わる身体の使い方について紹介します。キーワードは「腰」と「腕」です。

まず、おさらいとして2年前に「いなす」というテクニックを紹介しました。それが以下の写真と共に紹介します。

図1 押し合う ×



図2 当てさせて離る O



図1のように横から身体を寄せられた場面。押し合うことに力を使うのではなく、身体を当てさせ「離れる」という技術でゴールに向けて動かすことに集中する。

ですが、今回は相手に背中側から身体を寄せられた場面の身体の使い方についてです。

私が皆さんに伝えたいことは、ボールを持った選手が相手選手に寄せられた場面で、陥りやすい「保持して耐える」といった危機的な状況にも見える状況でもちょっとした工夫で、「静から動」にする。「保持から突破する」ことにチャレンジしてもらいたいからです。以下に紹介していく内容をぜひ読み進めてみてください。

図1 前傾姿勢 ×



まず図1の様子、背後から相手選手に背中を向けた状態で身体を寄せられた場面です。姿勢はどうなっていますか。上半身が折れ曲がり、くの字になっています。耐えるしかない状態に陥っています。これでは態勢が悪く、もっと強く寄せられたら前に倒されたり、または相手が一瞬で後ろに引いただけでバランスをとれず尻餅をついてしまいます。

図2の状態はどうでしょうか。背中を丸めることなく、相手の太ももの付け根当たりに腰回りを預けています。

図2 背中が起きている O



ここがPoint



そしてもう一つのポイントは、Aのように自分の腕を相手の脇下に入れておくことで、耐えつつ腕の力も使って反転することも可能になります。相手をボールへのアプローチを制御しつつ、そこに「いなす」など反転する技術を使ってチャンスを作り出すことも可能になってきます。

FWの選手であればポストプレーという相手を背負いながら味方からのパスを足元に受け、味方にボールを配球するプレーもありますね。

ただ、FWだけに限らず自分が同じ状況になった時に相手選手に優勢に立たれない方法で自分たちの攻撃が続くようにトレーニングしてみましょう。

「上手い選手」はテクニックだけでなく、「身体の使い方」「身のこなし方」も上手です。ポディバランスやステップワーク、走り方までプレーをより強く、速くすることも技術的な能力も高め、サッカーの楽しみ方がまた増えます。皆さんの活動にぜひ役立ててもらえればと思います。

「新たなアバン選手 紹介」

今回は、新たにアバンツァーレに加わった選手を紹介します。増田中学校3年生の山口眞輝斗くんです。下の写真の3人はジュニア時代に同じ増田FC所属の選手で各大会で見かけていました。その時の強かったチーム中心選手 3 名を縁あってこうしてアバンのジュニアユース選手として見られることは嬉しいです。

眞輝斗くんも中総体が終わってからこの時期に高い志を持ってきてくれました。その姿勢と実力は既にチーム内でも認められるほどです。短い活動期間ですが、眞輝斗くんの活動にどうぞ応援よろしくお願いします。力強いプレーに注目です。



相澤一成くん (やまぐちまきと) 菅原凜くん (すがわらりん)
山口眞輝斗くん

はじめまして、山口眞輝斗です。小学2年生からサッカーをしています。

ポジションはトップとサイドと、どこでもできます。得意な事はシュートです。

アバンに入った理由は、小学校の時に強かったイメージがあったし、東北大会にも行って一成や凜がいたからです。みんな面白いし優しいと思います。これから短い間、出来るだけ点に絡む動きをたくさんしてチームに貢献したいなどおもっています。

OB訪問に感謝



テクニカルスクールの時間に思いがけない訪問をしてくれたのは、今年卒業していった前キャプテンの渡辺大夢(わたなべひろむ)くんです。

現在は、東北高校でAチームへの競争に割り込みながら実力を発揮しているようです。

卒業してからも、卒業生たちは2部リーグでの結果や活動を気にかけ、

今回、東北大会出場への激励と、様子を見に来てくれました。

選手みなさん、とても有難いことですね。クラブにとっても卒業生がこうして関わってくれる、訪問してくれることは嬉しい限りです。つい先日、皆で話しましたね。

「感謝」の気持ちをもって活動しよう。こうして応援してくれる先輩たち、OBの親御さん、皆の親御さん、そしてクラブの小学生たちが、応援し支えてくれています。今後も「感謝」の想いを大事に活動の姿と結果で、応えていきたいと思います。